

(参考2) 平成15年平均消費者物価地域差指数の概況

(1) 平成15年平均消費者物価地域差指数(全国平均=100)を地方別にみると、総合指数(持家の帰属家賃を除く。)は、関東が102.6と最も高く、次いで北海道が102.3、近畿が101.4、北陸が100.3となっている。

一方、最も低いのは、沖縄の95.0で、次いで九州が97.0、四国が97.4、中国が98.5、東北が99.5、東海が99.8となっている。

(2) 都市階級別にみると、大都市が104.8、中都市が100.1、小都市Aが98.3、小都市Bが97.1、町村が97.6となっており、大都市の指数は町村に比べ7.4%高くなっている。

(3) 都道府県庁所在市別にみると、東京都区部が110.1と最も高く、次いで横浜市が109.3、大阪市が106.9、名古屋市が105.1、京都市が105.0となっている。

一方、最も低いのは、那覇市の97.0で、次いで松山市が97.9、宮崎市が98.1、岐阜市が98.7、徳島市が99.2となっている。

なお、東京都区部は那覇市に比べ13.5%高くなっている。

統計表は446ページに掲載している。

図 地方別消費者物価地域差指数

